

農林水産省食料産業局長賞

『給食を通して考えること』

宮崎県宮崎市立本郷小学校 六年三組 女子 新納 愛菜

「ああ、給食が食いてえ。」

と時々お兄ちゃんが言います。兄は今高校一年生。私立中に通っていた中学校三年間と現在も母の手作り弁当をお昼にとっています。私にしてみれば、愛情たっぷり母の弁当が時々うらやましくなるものですが、兄には給食の味が懐かしくてたまらないようです。

「チリコンカン、おいしかったよなあ。」

とメニューを思い出しては、その味を語る兄です。そして、それを聞いて母が夕食で給食の味を再現しようとトライしたり、父が自分が子どもの頃に食べていた給食を懐かしみながら語ったりして、我が家の食卓が給食の話題でにぎわうこともしばしばです。

私も給食が大好きです。必ず三時間目ぐらいからお腹の虫が鳴り始め、今日の給食は何だろうとワクワクするのです。特に七夕やクリスマスなどの季節に関係するメニューだとさらにテンションが上がります。どれもおいしく、味わいながら食べています。

私の学校の給食では、地元宮崎の食材を使ったメニューが多く出ます。五年生の社会科で学んだ日本の食料自給率の低さに驚きつつ、給食のメニューを国産のしかも地元のものを使って作れることはすばらしいと思います。私達は買い物に行けば欲しい野菜や果物、肉や魚が簡単に手に入ります。家では普段何気なく食べている食材も、給食だと献立表を見たり、校内放送で食材やメニュー、調理法が紹介されるので、いろいろと考える私です。漁師さんが夜遅くに漁でとってきた魚、農家の方が暑い日も寒い日も大切に育てた野菜、酪農の方が牛を飼い乳をしぼった牛乳；、全て大事な命です。そして、それを運搬する人、栄養バランスを考えて献立を立てる人、調理してくれる人達のおかげで私の口に入るのだと思う時、ありがたく「いただきます」の言葉が出てきます。

先日、インターネットで国連の一つの機関が発展途上国の子ども達に学校給食を届ける取り組みをしていることを知りました。今、6秒に一人、5歳未満の子どもが飢えを原因に命を落とし、学校に通っていても食事のできない子どもが6600万人もいるそうです。給食も含め三食しっかり食べられる自分の生活とは全く違う現実を知り、涙が出ました。目の前の食べ物を残すなんてできないと思いました。世界中の子ども達の心と体が、この取り組みですりでも元気になるようにと願います。

私は、今六年生です。後半年は給食が食べられます。私も中学生になって、お弁当生活が始まったら、父や兄のように給食を懐しく思う日がくるのでしょうか。おふくろの味として成人した人達が家庭を懐かしむように、給食の味として自分の舌にもその懐かしい味とおいと食感が残っていくのだらうなと思います。卒業まで給食を味わっていただきます。